【後期基本計画及び次期総合戦略に係る計上事業の整理等の考え方について】

■次の3つの区分をもって整理する。※参考…「現行の主要事業数:196」

《各施策の進捗等の状況・時代のニーズ等に応じて選択》 【区分1・継続 及び 区分2・新規】については、併せて次の事項についても検討する。 (1)現行の方向性の継続(現状維持又は現行どおりの推進) ◎関係事業との連携や相乗効果等を踏まえた「効果的な事業推進」を図るため、各事業を≪「まちづくり …現行の方向性を踏襲し、現行水準の維持又は右肩上 がりの実績としていくイメージ 区分1 の5本の柱(施策の大綱)」、「計画の実現に向けて」の取組み、「まちづくりの基礎・土台」の取組み≫の ①「充実・強化」 継続 どこに位置付けるべきなのか検討する。※必要により変更 (2)現行の方向性の見直し ②「再編(統合·分割)」 ◎「重点戦略事業」として引き続き位置付けること、また新たに位置付けることについて検討する。 ③「縮減・縮小」 ※併せて、位置付ける「項目」についても検討する。 区分2 ◎「次期総合戦略」の戦略事業として引き続き位置付けること、また新たに位置付けることについて検討 新規 する。※併せて、位置付ける「施策」についても検討する。 区分3 ・関係制度の廃止などによるもの ・時代のニーズを踏まえたもの ・前期基本計画の計画期間中に完了した(する)もの 廃止

~ 上記の整理に係る具体的な手法と流れについて ~

- 1 自己評価による現況の把握…各事業に係る実績・進捗状況に対する事業所管課による自己評価の内容から各事業の現況を把握する。
- 2 外部評価による課題の整理…「上記 1」に加え、総合計画審議会による総合戦略の実績評価から各事業における課題とその対応について整理する。
 - ・・・さらに、社会情勢や時流などの外的要素を踏まえた中で、事業の「重要度や必要性」について整理をし、今後の事業の展開に反映させる。